

原子力戦争の犬たち

福島第一原発で約2年間、
作業員として収束作業に従事した
釣崎清隆が綴るノンフィクション。

福島第一原発戦記

死体写真家として各国の犯罪現場や紛争地域
を渡り歩いてきた釣崎清隆が、取材ではなく
一作業員として対峙した収束現場の最前線。

使命感に燃える地元作業員と、様々な思いにかられ
各地から集まった作業員たちによる人間模様。浮き
彫りとなる矛盾。蔓延する言説が前進を妨げ、む
しろ被災後の方が切実な福島の悲劇に、憐れみでは
なく名誉を讃えよ！著者渾身の書き下ろし作品。

四六判／並製／192頁

【釣崎清隆略歴】一九六六年富山県高岡市生まれ。慶應義塾大学文学部卒。AV監督を経て写真家としての活動を開始。死体を被写体としてタイ、コロンビア、ロシア、メキシコ、パレスチナなどで取材を行ってきた。映像作家、文筆家としても活動中。著書に『死体に目か眩んで』『死者の書』、映画監督作品に『死化粧師オロスコ』『ジャンクフィルム』がある。

●目次

1Fカサンドラ・クロス／車両サーベイ

- 花園の秘密
- 福島原子力災害／現場の論理
- 車両サーベイ／東電の犬
- 矛盾の現場／「サーベイ」は測定に非ず
- 車両サーベイ道の作法
- 嵐の現場／ボックスカルバート
- GM管がない！

外人部隊

- 山水館物語／外人部隊の飯場ユートピア
- S社長の物語
- ノリさんの物語
- ババアの物語
- ナオキの物語

汚染地帯

- パンドラの箱
- 危険手当の行方
- 浜通りゼノフォビア
- 1Fの掟と引き裂かれた虚無
- 嬲られ、分断され、見棄てられ、狂騒する荒地
- 「原発慰安婦」との遭遇

1F宇宙戦争／ラジコン

- ラジコン／1F災害最前線
- 「特攻」／戦場の論理
- 1F作業員の鏡
- 月世界旅行／ある不祥事
- 最前線と真の戦士

戦争と名誉

- 1F殉職者の名誉
- IAEAのお通り／戦後日本の縮図
- 穢された誇りのユニフォーム
- チェルノブイリと福島／名誉喪失の未来像

狂騒する荒地。見棄てられ、分断され、嬲られ

ご注文&お問い合わせは → 東京キララ社 TEL & FAX 03-3233-2228

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-20 暁ビル2F8号 (9月より移転しました。電話FAXメールは変更ありません) / mail: order@tokyokirara.com

新刊委託 【指定締切 3月1日】 (締切後は注文扱いとさせていただきます。ご了承下さいませ。) 3月9日搬入予定 (フリー入帳)

番線印	希望数	ISBN978-4-903883-23-6 C0036	発行・発売:東京キララ社
年	冊	原子力戦争の犬たち	
月		福島第一原発戦記	
日		釣崎清隆	
		定価(予定): 本体1,600円 (税別)	